

ASEAN グローバルプログラム を終えて

大野 巧成

Kousei OHNO

情報メディア学科 2年

1. はじめに

ASEAN グローバルプログラムに参加し、2019年8月27日から9月5日における10日間にわたって、ベトナムの首都であるハノイ、およびシンガポールに滞在しながら、現地で様々な活動を行なった。主な活動として、ハノイでは日系および現地企業の訪問、ハノイ工業大学でのベトナム人学生とのPBL、そしてシンガポールでは南洋理工大学や現地企業の訪問、様々なビジネスパーソンの講演および交流会などがあった。

今回のプログラムの目的は、ASEAN地域の文化、産業、日本とのかかわりを知ること、また、現地での人的交流を通じてASEAN地域と日本とのかかわり実体験から学ぶことであった。具体的な日程は以下の表に示す。

表 研修日程

8月27日(火)	出国 ハノイ着
8月28日(水)	栄光堂, NTQ, Rikkei Soft 訪問
8月29日(木)	ハノイ工業大学 PBL 1日目
8月30日(金)	ハノイ工業大学 PBL 2日目
8月31日(土)	ハノイ観光
9月1日(日)	出国 シンガポール着 WASABI CREATION 講演会
9月2日(月)	南洋理工大学訪問 (講義, 研究室見学)
9月3日(火)	Google 訪問, ビジネスパーソン交流会, 加藤氏講演会
9月4日(水)	シンガポール観光 出国
9月5日(木)	帰国 日本着

2. 参加目的

本プログラムに参加するにあたって私は、急激な経済成長を遂げ、グローバル化の波が止まらないベトナムとシンガポールを訪れ、ASEAN地域に展開している日系企業や現地企業を見学、さらに企業の方と交流することでグローバルな活動を知り、海外視察を見据えた現地だからこそ学べる様々な知識を養うこと、あるいはその国独自の文化や風習、価値観を肌で感じることで、世界に視野を広げ、グローバルな人材を目指すことを目的とした。また、語学の面から日本語が通用しない地域で、世界共通語である英語を通じて自身がどれほど話せるのか、どれほどコミュニケーションをとれるのかといった実力を知疏と共に、実践的な語学力を養うことも目的とした。

3. 研修内容

本プログラムにおける研修内容は豊富であり、どれも実りある充実した時間をすごすことができたが、その中でも特に今回の研修の日程の中で、事前学習を重ね、当日までに試行錯誤を繰り返した、ハノイ工業大学におけるベトナム人学生との2日間におよぶPBLについての記録を以下に記す。今回、PBLを行うにあたって、共に取り組んだベトナム人学生は国際学部として日々勉学に励んでおり、第2言語である英語において、ライティング、リーディング、リスニング、スピーキング、どの点においても私たちと比較しきれないほどに優れていた。1日目、班に分かれ、活動を進めていこうと試みる中で、現段階でのベトナム人学生の彼らと私たちとの英語におけるスキルの差が圧倒的に異なるため、英語を用いた会話というものがままならず、自身の班内では彼らとのコミュニケーションの取り方に苦しんだ。そんな中、ジェスチャーや片言ではあるが、自身の英語力でなんとかコミュニケーションをとりつつ、活動を進めていった。今回のPBLにおける活動では、ベトナムの日系企業である鈴木栄光堂が

の商品「塩レモンキャンディ」を現地であるベトナムで爆発的にヒットさせるというテーマのもと、あらかじめ日本での事前学習で立てた仮説を検証するためのアンケート調査、またその結果を踏まえ、テーマに関するプレゼンテーションを現地の学生と共同で行うというものであった。

現地の学生となかなか意思疎通のとりづらい状況に置かれながらも、彼らの尽力によりアンケートの項目決めや、またその調査も着々と進行し、100を超える回答を収集することができた。立てた仮説を立証させるべく考えたアンケート項目であったが、いざアンケート結果を集計してみると、立てた仮説が立証できなかったものもあり、どうすればよいかと班全員で1つの問題に対し、議論、話し合いを重ねた。試行錯誤を繰り返していく中で、次第に班が一体となっていったように感じた。2日目、前日の反省を踏まえ、再びアンケート調査、その集計を行い、プレゼンテーションに向けての準備を進めた。私は、班内のコミュニケーターとして、プレゼンテーションで発表する内容を班内のベトナム人学生に伝えた。最初は、コミュニケーションすらままならなかった状況であったが、彼らと時間をともに過ごす中で、次第に彼らが話している英語が聞き取れるようになり、それに伴って、自分の伝えたいことが英語で話せていた。ベトナム人学生の彼らも私が話している英語を懸命に聞き取り、メモを取ってくれていた。この機会が英語を通して会話・発言することに対する大きな自信につながった。

その結果、プレゼンテーションは、成功に終わり、ハノイ工業大学でのPBLが無事終了した。フィールドワークを見据えた現地でのアンケート調査や、英語を用いた海外の人とのコミュニケーション、どの点においても、この2日間は学びがいの多いとても有意義な時間を過ごせたと感じた。



写真1 アンケート調査時の後者にて



写真2 アンケート集計中の風景

4. おわりに

本プログラムを終え、私は多くのことを学び、感じ、自身の海外に関する見解を見直すことができた。その際、自身の英語のスキルの低さを痛感したり、日本と海外での労働や生活などといったあらゆる観点における違いに圧倒されたりと、自身における課題や気づきを知る局面も多々あり、ASEANグローバルプログラムにより成長した点は大いにあったと言える。したがって、今回の研修を通して、日本から一歩外に出た世界を見ることで、新たな気づきや見解に辿り着き、学びたいと感じた。